

茶話

SAWA

日本茶インストラクター
協会熊本県支部会報
平成21年12月30日発行
第26号

繁華街でインストラクション 『くまもと銀杏祭』 下通りアーケードにて

10月31日、熊本市華街において喫茶スタイルでの日本茶カフェが行われました。詳細は、山田繁宏さんより報告です。

活動報告 山田繁宏

その日はすすり茶でのおもてなしでした。甘くておいしいお茶をガイワンという茶器でエキスを味わって頂くもの・・・その後は少し熱めのお湯で・・・さらに、ポン酢を注いで食べていただく・・・この要領でのチャリティーイベントでした。



お客様は「あなた達とてもお茶を淹れる格好ではなくワインのソムリエみたいだね。若い人たちが行っているのがよくわかる」「うーん、甘いお茶」「お茶をこんなに食べて食べるなんて初めて」など意見を戴きました。私もお茶を淹れる時、ふとインスト二次試験の時のことを思い出したことでした。

それは「玉露を淹れてください」と言われた時の言葉。玉露は浸出時間が長く、その間に口上を述べなければなりません。そこで用意していた言葉がありました。「濃く甘く、湯加減に出た重い露を舌の先へとしずくずつ落とし」という夏目漱石の草枕にある詩でした。まったく歯が浮くような言葉をよくもまあ言えたなと思います。

このお茶はその言葉通りお茶のエキスを「ぐいっ」といって、ただく至福の時！やはり「うまい」と唸るお客様の気持ちを感じられる瞬間でした。

しかし、お疲れ会では丸テーブルから会議テーブルでの対面の接待が良いなど反省点も出て次

のイベントはこの事を材料にもっとうまくやろうと一致団結して終了しました。

「お茶いっばいの日」開催

11月23日、県内茶関係団体統一行動による「全国一斉・お茶いっばいの日」のイベントが、熊本市サンロード新市街において各団体による出店等行われました。私達インストラクターは、県茶品評会での入賞茶を前回の接客とはスタイルを変えて行いました。当日の詳細について小田さんより報告戴きました。



活動報告

小田千子

このイベントも、昨年の八代ハーモニーホールに始まり、全国お茶まつり、八代妙見際、茶商青年団とのコラボ、7月ゆかたまつり、10月お城まつり、銀杏祭、そして今回ともう8回目（個人的には、人吉市内での3月のくま茶カフェと5月の百円喫茶 in 人吉城が加わり10回目!）となり、熊本支部の十八番

手慣れたものだと思います。

今回の特徴は、まず単独行事ではなく、県の茶業界が一緒になってイベントをしたということと、それから、初めてカウンター形式を採用したこと。一昨年、全国青年団がお茶いっばいの日を提案して、1年ちよつとでこれだけ賛同して行事ができたことは、素晴らしいと思います。また、お茶まつりのエリアの中では、一番人気というか輝いていたというか、インストラクター協会無くしてお茶まつりは成り立たないことを印象付けたのではないかと思います。

カウンター形式を採用することによりお客の回転が速くなり、約300名の方にお茶を提供できました。しかし、無料というのが、自分としてはやはり納得がいかないところでした。また、寒い中ですので、暖かいお茶を出すことがもてなしかなと思っていました。PRが目的ならば品評会茶がいいかなとも思ったところでした。

最後に、寒かったあの日に参加された皆様、朝から夕方までの行事でお疲れ様でした！皆さんがそれぞれの役割を全うされたからこそ、成功できたと思います。黒エプロンの統一衣装も良かったです。ただ、お客様には寒そうに見えたようです。インストラクターの振る舞い・衣装も考えていけたらと思います。

「蒸製玉緑茶」とは

釜炒り茶には佐賀県嬉野市を産地とする「嬉野」と、熊本県や宮崎県で生産される「青柳」があった。両茶種の違いは釜の設置方法で、嬉野は釜が約45度に傾斜していたのに対して青柳の釜は水平であった。嬉野の釜が製茶専用の釜であるのに対して、青柳の釜は豆を煮たり櫛（こうぞ）や三極（みつまた）を蒸す時、またタケノコを湯がく時にも使われていた汎用性の釜であった。

嬉野の製法は、宮崎安貞の『農業全書』にも「唐なべ取分よし。へついを、うしろ高にぬりすへ、土壇の上をバ紙にてはり」と紹介してある。釜を斜めに据えるという形式でいえば和歌山県田辺市や京都府宇治田原町、滋賀県野洲市竹生、また高知県大川村や大分県の間部にも見られた（筆者は天草市楠浦町でも傾斜釜があったという話を聞いている）。

ところが、山都町でも傾斜した釜による釜炒り茶があった。『目で見る宇城・上益城の100年』の57頁、「釜炒り茶の作業（矢部町・昭和15年）矢部農業学校での実習風景。釜で炒り、手揉みで仕上げている。」とある。青柳の主産地矢部にどうして傾斜釜！？謎に満ちた一枚の写真は何を語ろうとしているのだろうか。



インスト豆知識

あなたの講座、お茶は？

「お茶講座」の料金

下世話な話と思われがちなのでなかなか取り上げにくいお話なのですが、お金の話です。

先日、ある方より「熊日の〇〇さんの講座って、結構高いそうだけど幾ら位するんだろう？」のご質問。金額は伏せますが4回の講座で、お茶・菓子代込みでも結構な値段。あなたなら、幾ら戴きたいですか？

さて、私の場合、日仏山円性寺というお寺の30畳敷きのお座敷で、観光ツアー客に1時間程度お話をします。旅行代理店から支払われるのはお菓子代別で5000円。講座のために用意したお茶代だけでこの金額は超えてしまいます。でも、使用するお茶の量分だけ料金を計算すると1500円程度。すると、残り私の話と資料代、助手の手



当てということになるでしょうか。

毎回、お客様が1人500円払っても聞いてよかったと思われる講座を出来たかどうか、いつも自問自答しています。

会員短信

消費対策プロジェクトは三年続く

堀野裕一朗

なぜか知らんが消費対策プロジェクトのプロジェクトリーダーになってしまい、11月23日の「全国一斉お茶一杯の日」第

ティークタイム

「別腹(腹)って本当にあるの？」

食事に出掛けて、「もう食べきれない位にお腹いっぱい食べた後、デザートや大好きな料理が出てきたりすると、なぜか食べられたりして、「これは別腹よ！」なんて事ありませんか。でも「別腹」って胃は一つしかないですよ。実はこの「別腹」が胃の中で起きるのです。胃の中で消化される訳ですが、美味しそうなものを見ると十二指腸がどんどん消化酵素を出して胃の消化を早くし、胃の上部に少しの空間を作るのです。そこが何を隠そう「別腹」の正体なのです。でも食べすぎには変わりありませんよ。

二回熊本お茶まつり」ではインスト、アドバイザーの皆様にはお茶カフェでフル回転してもらい、本場にありがとうございました。お茶まつりを見渡せば、活躍しているのはインスト・アドの皆さんのなんと多いことかやはり、熊本のお茶の消費拡大には皆様方の力が絶対に必要なのです。そう確信を致しました。

しかし、ただイベントをやるだけではこの時代不十分な事は分かっています。皆さん一人ひとりの地道な活動が大事になってきています。最近、お茶講座を自分でもあまりやらないので、これからは講座に力を入れてみたいものです。とにもかくにもお茶が売れないことには、誰もが幸せになれないので、お茶が売れるよう努力していきたいものです。

さて、最近インフルエンザが猛威をふるっています。我が家の子供らもインフルエンザに罹ってしまいました。お茶屋の子供としては情けない限りなのですが、熱が出て、あることをすると1日で回復しました。実は霧吹き機の中にお茶を入れて、子どもらに鼻からその霧吹きのお茶を吸わせました。(10分の1くらいに薄めたやつです)症状は長引きもせず、霧吹きの状態だから子どもたちも嫌がることなく鼻からお茶を吸っていました。インフルエンザの発症の実に7割は鼻腔内での感染が原

因で、お茶うがいでだけでは感染のリスクを30%しか減らせません。インフルエンザの予防効果を高めるためにも、鼻腔内をケアすることは意外と有効です。風邪にも効果ありますし、加湿器などにお茶を入れて部屋を加湿するのも効果あります。実際に病院などで院内感染予防に採用されているところもあるとか。

いろいろと見せて、言ってお聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人はうごかじ

お茶離れを食い止めた

杉本隆之

お茶関係者にとってはショクナなことですが、食卓にポットも急須もないという家庭もあります。ペットボトルが当たり前のように、ドンと食卓に置いてあるのです。平成11年に日本茶インストラクター制度が出来て、少しは消費者の緑茶離れにストップがかけられたと思います。しかしながら、多様化する食生活の中で、それ以上のスピードで緑茶離れが進んでいるように思います。

振り返ってみると、今年燃料費や資材の高騰、さらに追い打ちをかけるように、二年連続お茶の価格下落でした。茶商も生産者も生き残りをかけての、大変厳しい経済環境だと思えます。だから、今回の県産茶緊急地域銘柄確立支援事業。現政権ならば事業仕分けの対象となり、恐らく廃止です。この事業は茶商と生産者が対立します。それより緊急的な事業として、全国の小中学校で食育を兼ねて、うがい用のお茶を配布してほしいです。そこに補助をしてほしいのです。新型インフルエンザ対策としても有効です。

例えは、全国一斉うがいの日として、毎月一回実施していただけたら、子供たちの風邪は減らし、下級茶の価格低迷が解消されます。

さらに、お茶作りの体験を含め、お茶講座を取り入れてほしいです。子供たちがお茶に愛着を感じてくれることで、将来的にはお茶を生活に取り入れてくれると思います。これが実現できれば日本茶インストラクターやアドバイザーの活躍の場も増えて、お茶離れは解消すると思います。

今回の短信は、ただ今選考中です。次回のお茶を、ぜひ読んでほしいです。

2回目をお願いするかも...

《編集後記》◎「除夜の鐘を聞く前までに...」を目標にがんばりました。何とか間に合いました。やっとなが越せそうです。小田さん、ありがとう。◎講座の代金戴かないで出来るのが日本茶の普及にはなるのですが、それでは自分たちの苦勞は水泡に帰すことになりす。むずかしい。◎インフルエンザのおか

げで、我が家では空のペットボトル争奪戦。お茶を家族みんなが入れていくので朝からお湯も競争です。